

# 「テキストファイルによる情報整理」

江渡浩一郎 ((独)産業技術総合研究所)  
2006@eto.com

## Webによる情報公開

私は1994年2月よりWeb上での情報公開を続けてきている。一番最初に公開した文章は「簡単なCGIとFORMの使い方」というPerlによるCGIスクリプトの作り方を解説した文章である。これは日本で最初にCGIを使ったWebページである。

その後は主にCGIを使ったページを公開してきたが、その6年後の2000年に「<http://eto.com/d/>」というURLでブログのようなWebページを公開しはじめた。どのような思考のもとに書き始めたのか、過去に遡りつつ考えてみる。

## はじめてのあっぷる

私は昔から、何でもメモをとるという習慣があった。明確にその意味を考えるようになったのは「はじめてのあっぷる」(図-1)という本の影響である。これは日本でApple IIcが発売される際に、代理店だったキヤノン販売がマニュアルの一部として作成した本であり、非常に好評だったため後に一般書籍として販売された。

ハイテクノロジー・コミュニケーションズ  
「はじめてのあっぷる」小学館、1984。

この本はApple IIcの使い方について解説するマニュアル本という側面と同時に、パーソナルコンピュータとは何かという思想について語った本でもあった。この本の冒頭では絵本仕立てで、ある寓話について語っている<sup>☆1</sup>。

ある国の王様は、自分の城に林檎の木を持っていた。その木はとてもおいしい林檎の実がなるのだが、それは王様だけが独占してきた味だった。ある時、そのお城に



図-1  
「はじめてのあっぷる」  
ハイテクノロジー・コミュニケーションズ  
「はじめてのあっぷる」小学館、1984。

しのびこんだ若者(もちろんスティーブという名前だ)は、お城から1個の林檎を盗みだし、その種をみんなに配った。みんなはその種から林檎の木を育て、みんながその林檎を味わうことができるようになった。みんなが喜ぶ顔を見て、王様はまんざらでもなかった、というお話。

この寓話は、パーソナル・コンピュータというものは、一部の人が独占してきた「知」を解放するためのものであるという思想を示している。思想というと堅苦しいが、この本は具体的にどのようにコンピュータを使っていけばいいのかについても語っている。その中の1つが、この本の第3章「まず自分の『アップルノート』を作ってみよう」である。

「コンピュータを使いこなしている人」に「どうすればそんな風にコンピュータを使いこなせるようになるのか?何か秘訣でもあるのか?」と質問してみても、おそらくちゃんとした答えは返ってこないだろう。しかしそれは、そのような秘訣がないということではない。そのような人たちは、それを自然とマスターしてしまったので、気付いてないだけだ。その秘訣とは「何でもメモをとる」ということである。

まず1冊のノートを用意する。そのノートは航海日誌を意味する「LOG」と名付ける。そのノートに、コンピュータを使っていて起きたことは、何でもメモをとる。たとえば、ソフトの使い方、ゲームのハイスコア、自分の考えたアイデアなどといったことを書く。今日買ったソフトのレシートを貼り付けるのもいい。とにかく、気付いたことは何でもこの1冊のノートに、分類せずに時間順に記録する。書式は自由だが、日付だけは分かりやすく書いた方がいい。

<sup>☆1</sup> <http://homepage3.nifty.com/apple2tree/books/books1.htm> を参照した。

このようなアドバイスに感銘を受け、私はその後このアドバイスに沿って記録を続けてきた。そのようにして記録し続けてきたノートは数十冊にのぼる。

### 「超」整理法

紙のノートに記録していた時代は、10年以上にのぼる。それをコンピュータ上に記録するようになったのは『「超」整理法』という本がきっかけである。

野口悠紀雄『「超」整理法』中公新書, 1993.

この本は一般には紙の書類の整理法について書かれたものと考えられているが、それだけではなく、パソコンで業務日誌をつけることの重要性についても語っている。紙書類の整理法と共通した手法を提唱しており、内容に沿って分類・記録するのではなく、ただ時間順に並べて書くのがいいと述べている。これは実は、いままで私が紙のノートで続けてきたことと同じである。

私はいつかコンピュータ上でメモをとれるようになるといいと思っていたが、その手法が思いつかなかった。私がいままで続けてきた記録方法を、そのままコンピュータ上に再現すればそれでいいのだということ、気付かされた。私は1996年9月より、コンピュータ上に業務記録をつけるようになった。

まず、自分のホームの下に「log」というディレクトリを作る。そこに「memo.txt」というファイルを作り、そこに何でもかんでも時間順に記録する。このファイルが大きくなった場合には、1カ月単位でこのメモを分割し、たとえば「0603.txt」(2006年3月の意味)といったファイル名でまとめていく。

記録する際には、日付を区切る記号と、記録項目を区切る記号は明確に決めておく。私の場合は、日付ごとに「=」の連続で区切り、項目ごとには「-」の連続で区切っている。日付と時間を入力する作業は頻繁に発生するため、エディタのマクロ機能を使って自動化している。実際に使用しているメモの例を図-2に示す。この記号をインクリメンタルサーチで探すことによって、日付間の移動を容易に行うことができる。また、エディタのハイライト機能を使って色付けをして見やすくしている。

この記録は基本的には業務記録であり、どのような作業を行ったのかを記録する。それとともに作業において必要だった知識もまたできるだけきちんと残す。仕事で必要になる情報は主にWebを検索して集めてくるわけだが、その場合はURLだけを記録する。こうすると、それぞれの情報ごとのリンク集のようなものができ

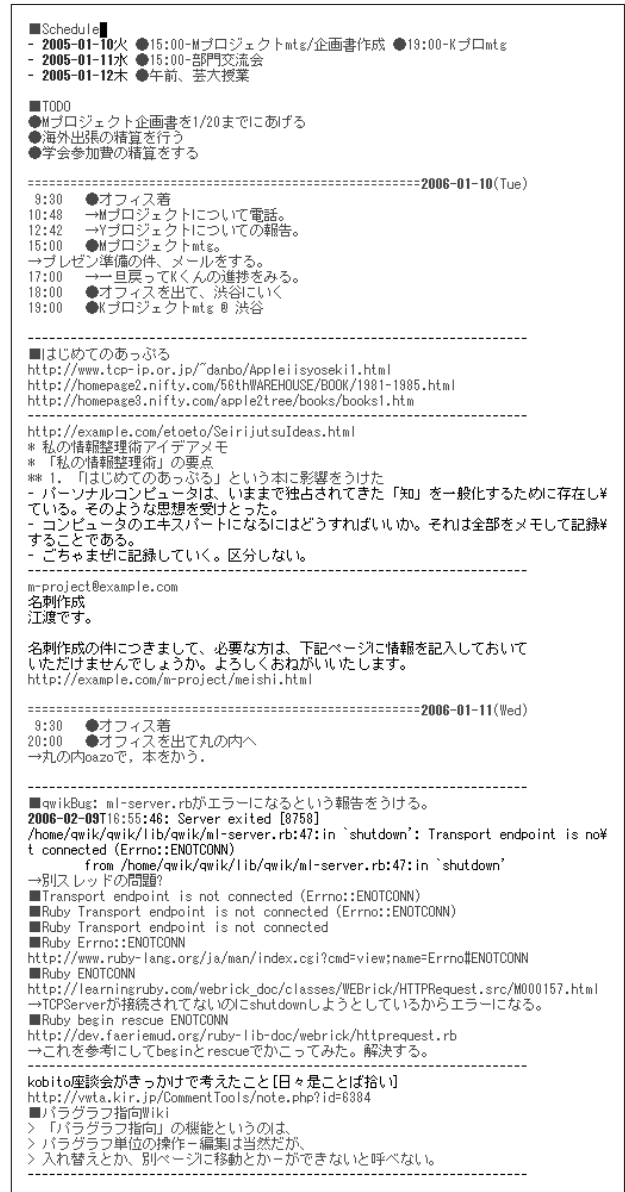


図-2 テキストファイルによるメモ帳のイメージ

あがる。このような情報を、部分的に公開したものが「http://eto.com/d/」なのである。

### キーロガーの比喻

このテキストファイルに何を記録するのか、簡単に言えば、自分が生み出した情報については、何でもかんでもすべて記録する。

自分が生み出した情報をすべて漏らさずに保存するにはどうすればいいか。普通は情報はキーボードから入力するものと仮定すると、キーボードからの入力すべてを、キーロガーなどのソフトウェアを使って丸ごと記録してしまえばいい。そうすれば後から情報入力を完全に再現できる。

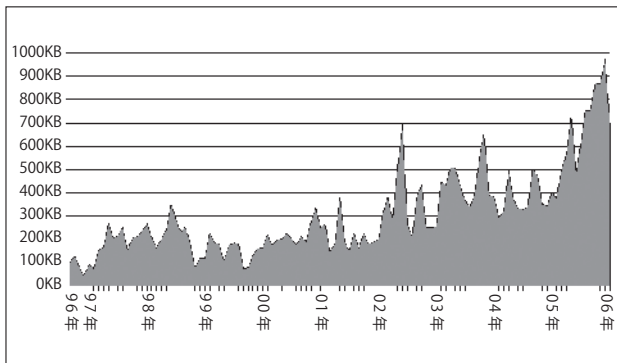


図-3 メモ帳の月ごとのファイルサイズの変遷

厳密に同じではないが、このアイデアを比喩として考えることができる。つまり、自分が生み出す情報はすべていったん1つのテキストファイルにまとめ、そこから目的となる場所に転記するようにする<sup>☆2</sup>。

たとえば私は、自分が書いたメールはすべていったんこのテキストファイル上で完成させてから、メーラーにコピー＆ペーストして送信している。図-2中央にメール送信の例があるが、このように送信先のメールアドレス、題名、本文を順に書き、それを転記する。このようにすれば、自分が送信したメールはすべて1つのテキストファイル上に時間順に並ぶことになる。ブログやWikiといったWeb上のシステムに情報を入力する場合も、同様にこのテキストファイル上で文章を完成させてから転記している。このようにいちいち転記するのは面倒ではないかとよく聞かれるが、実際に面倒くさい。しかし、このようにして情報を一元化することの利点が上回っているため、この方法を継続している。

図-2にあげたサンプルは実際にはフェイクであり、情報量は少ない。実際に使用しているメモ帳のファイルサイズを月ごとにまとめた(図-3)。最大となった2005年12月は972KBであり、1日に換算すると31KB(約700行)で、つまり1日で図-2の約10倍程度となる。自分が入力した文章だけではなく引用した文

☆2 残念ながらこの手法では、テキスト情報しか扱えない。画像ファイルやプログラムのソースコードなどはどうしても分離して扱わざるを得ず、この点は将来の課題である。

章を含んでいるためだが、このくらいの情報量に膨らむこともある。

## ヒューメイン・インタフェース

このように時間順に1つの同じテキストファイルに記録することだけで本当に情報が整理されるのかと思われるかもしれない。メール、行動記録、アイディアメモなどといったそれぞれの分類ごとにファイルに分離した方がいいと思われるかもしれない。しかし実際は逆である。1つのテキストファイルに時間順に追記する形が最も効率が良い。

情報を探すときは、インクリメンタルサーチを用いる。自分で書いた文章であれば、大抵の場合その断片は覚えている。メールを書いたのであれば、送信先のメールアドレスの断片を覚えていることもあるだろう。それをキーにしてインクリメンタルサーチをすれば、容易に過去の情報を探しだすことができる。

後で気付いたことだが、この手法はJef Raskinが「ヒューメイン・インタフェース」で書いていた方法とまったく同じである。この本ではCanon Catというシステムを設計した時の経験から、検索による文章発見の重要性について語っている。

ジェフ・ラスキン「ヒューメイン・インタフェース」  
ピアソン・エデュケーション、2001。

## まとめ

私の情報整理術として、1つのファイルにすべての情報を時間順に記録する手法を紹介した。また、その手法を考えるに至った3冊の本を紹介した。

ここでは私個人の情報整理手法について紹介したが、現在私は複数人からなるグループにおける情報整理・共有手法について研究している。このような手法についても、いつか紹介したいと考えている。

(平成18年2月11日受付)